玉川学園は 2006 年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園（Kindergarten）から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。
小学部から高等部までの各学年を 1～12 年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。
Primary Division（幼稚部および 1～5 年） ＝ 幼稚部および小学校 1～5 年
Secondary Program Division（6～12 年） ＝ 一般クラスの小学校 6 年～高校 3 年
IB Programs Division（6～12 年） ＝ IB クラスの小学校 6 年～高校 3 年

2022 年度 玉川学園学校評価（自己評価結果）

評価規準	2022 年度の課題・重点施策	2022 年度自己評価 2022 年度の課題・重点施策に対する**達成状況**	2022 年度自己評価 2023 年度の**課題と改善方法**（2023 年度の課題・重点施策）
目的（01）：重要な使命の共有 **Purpose (01)： Sharing an important mission**	【学園教学部長】 ● Tamagawa Vision 100 を教職員間で共有し、創立 100 周年を見すえ全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。IB の理念や IDEALS の考え方を K-12 全体で共有し、現場の指導にあたる。（0101-01） ● 全人教育の理念に基づき、新しいディビジョン体制の中で一貫した指導体制をとれるように、教務委員会と協働し研修計画を立て、実施する。(0201-02) ● 全人教育における、12 の教育信条の周知徹底、「玉川っ子」の概念の共有、IB の学習者像の共有を図り、共通の理念に基づく教育活動を積極的に展開する。(0101-03)	【学園教学部長】 ● 教育部長を中心とし、全人教育の理念のもとに K-12 一貫教育を推進することができた。Tamagawa Vision100 に基づいた K-12 の中長期目標を設定、各 Division 間で共有するように務めた。(0101-01) ● 学内教員研修として、6 月 22 日 Secondary Program Division(東山校舎)で授業研究を実施、K-12 教科部会で振り返りを行った。新 Division 体制になって初めて実際の授業公開の場を設定することができ、よい情報共有の場となった。(0201-02) ● 全教職員に“12 の教育信条、IB 学習者像、IDEALS ”を記載したカードの配付、及び、ポスターの掲示等をして、常に本学の使命を意識しながら教育活動に当たるよう務めた。(0101-03)	【学園教学部長】 ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立 100 周年を見すえ、全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。（0101-01） ● 中長期目標に基づき、K-12 教員が参加する研修、及び、研究会を実施し、教員の全人教育の理解度を深め、指導力の向上を図る。(0201-02) ● 全人教育における、12 の教育信条の周知徹底、「玉川っ子」の概念を共有するために、全人教育に関する研修を深めるよう計画する。外国籍教員に対して、全人教育の理解の徹底を図る方策を探る。(0101-03)
規準(0101)：目的 Standard(0101)：Purpose ０１０１－０１ 学校の統括組織および学校リーダーは、全人教育、学習指導要領と IB の理念と使命、IDEALS に沿って、学習目的を明確化すること。 ０１０１－０２ 学校の教育的リーダーシップチームは、生徒が能動的で思いやりのある、生涯にわたり学び続ける学習者になることを奨励する教育的アプローチを採用すること。 ０１０１－０３ 学校のコミュニティーは、「12 の教育信条」「IB の学習者像」のすべての人物像を体現する国際的な人材を育成すること。	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 各行事の開催時期や内容の見直しを図るとともに、自発的な遊びの時間の目的や環境設定について研修や振り返りを積極的に行う。（0101-02） ● 全人教育に関する書籍や関係パンフレット等を陳列し共有するための書棚を職員室に設置する。年齢に応じて、各教室に「玉川っ子」の目標をわかりやすく掲示する。（0101-03）	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 新型コロナウイルス拡大によるパンデミックを経て、年間主要行事の開催時期、開催方法について見直しを図り、実行することができた。８つの期ごとに保育活動の振り返りミーティングを実施した。（0101-02） ● 特に年長組の教室を中心に目標の掲示を行い、学期ごとの集会や礼拝においても「玉川っ子」の目標について講話を実施した。（0101-03）	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 各学年の発達に即し、園児がより主体的・能動的に学びを得られるような遊びの環境設定、活動のねらい、各行事の在り方などについて部内研修等を通して話し合う。（0101-02） ● 全人教育の理念を土台とした教育の実現をめざし、「12 の教育信条」「IB の学習者像」と実践している教育活動との関連性について、部内研修等を通して話し合う。（0101-03）
	【教育部長（K-5 担当）】 ● Tamagawa Vision 100 を教職員に徹底し、創立 100 周年を見すえ、改めて全人教育の理念のもとに教育を推進する。（0101-01） ● 「玉川っ子」の約束の内容を再確認し、児童と教師、保護者が一体となって全人教育の今日的な解釈に基づく教育活動の実現を目指す。（0101-02）	【教育部長（K-5 担当）】 ● 全人教育の理念に基づいた教育目標を掲げ、全教員が今年度の重点目標を作成し、教育活動を実践した。（0101-01） ● 児童一人ひとりが「きれいな心」「よい頭」「つよい体」の玉川っ子の具体的な目標を立て、「望ましい玉川っ子」像を明確にし、児童と教師、保護者が一体となって指導に当たった。（0101-02）	【教育部長（K-5 担当）】 ● Tamagawa Vision 100 をもとに設定した中長期目標に従って、創立 100 周年を見すえ全人教育の理念のもとに教育活動を展開することを徹底する。（0101-01） ● 中長期目標に基づき、自校教育カリキュラム作成に向けて全人教育理解のための計画を立てる。（0101-02）
	【教育部長（6-12 担当）】 ● 全人教育の理念のもとに、2022 年度から実施される高校の学習指導要領に準じた教育課程を実施する。（0101-01） ● 12 の教育信条と「主体的・対話的な深い学び」を実践するために、2022 年度から 6 年生までに広がる BYOD に対応する授業を実施する。さらに ICT 活用スキルの向上研修を行う。（0101-01） ● 「計画立案・実行・評価」できる学習カリキュラムの内容を共有し改善案の検討をする。（0101-01） ● グローバル人材の育成として、教科、行事、HR 等の活動内容の方向性を継続検討する。（0101-03）	【教育部長（6-12 担当）】 ● 全人教育の理念のもとに、2022 年度から実施される高校の学習指導要領に準じた教育課程を実施することができた。(0101-01) ● 12 の教育信条と「主体的・対話的な深い学び」を実践するために、2022 年度から 6 年生までに広がる BYOD に対応する授業を実施することができた。（0101-01） ● 各教科「計画立案・実行・評価」できる学習カリキュラムの改善案を検討することができた。（0101-01） ● 教科、行事、HR 等のさまざまな活動において、グローバル人材育成の方向からも内容の検討ができた。（0101-03）	【教育部長（6-12 担当）】 ● 各教科の教育課程において、全人教育の理念、高校の学習指導要領に準じたものかを再確認し、シラバスで内容を明確化する。（0101-01） ● BYOD に対応するカリキュラムを検討し、各教科の実践を共有しデジタル教科書の検討を進める。（0101-01） ● グローバル人材育成に必要な語学力、主体性、協調性など、どの活動にどのようなアプローチをすべきか検討する。（0101-03）

目的（01）：重要な使命の共有 **Purpose (01)： Sharing an important mission**	【教育部長（IB 担当）】 ● Much more needs to be done in this area in 2022 and the years to come. The Division will continue lobbying for a (series of?) bilingual workshop(s) to be developed and held for the benefit of IB teachers and leadership, to educate and gauge their understanding of the foundations and overall philosophies of Zenjin education. (0101-01,03) 2022 年度以降も引き続き多くの取り組みを行う必要がある。全人教育の基礎や理念、考え方を教員が学び、理解を深めるための、教員と管理職に向けたバイリンガル教員研修（複数回にわたるシリーズ化）の実施に向けて調整する。(0101-01,03)	【教育部長（IB 担当）】 ● Not much progress has been made here in 2022. The IB Division Head has regularly attended the monthly Zoom meeting of the K-16 Zenjin Committee, although this information has not been systematically nor effectively disseminated to IB leadership or teachers. 教育部長（IB 担当）は、K-16 全人教育研究センター運営会議のメンバーとして月例 Zoom 会議に定期的に出席しているが、ここで得られた情報は Division 内の管理職や教員に体系的かつ効果的に共有することが 2022 年度はできなかった。	【教育部長（IB 担当）】 ● The IB Division Head will bring Divisional concerns to the K-16 Zenjin Committee to elicit advice on more effectively communicating this information to IB shareholders in the near future. 教育部長（IB 担当）は K-16 全人教育研究センター運営会議の場で現状の懸念点を伝え、Division 内での全人教育の基礎や理念、考え方の理解を深めるための助言を受け、得られた情報を効果的に Division 内の管理職や教員に共有していく。
	【アカデミックサポートセンター長】 ● 3 つのセンター(ES センター、K-12 国際教育センター、MMRC)が実施する事業は、Society5.0 に対応した新しい学びのスタイルを意識した中で行われるよう、事業計画にその内容を盛り込む。（0101-02） ● K-12 一貫教育体制をより強固にする附置機関としての役割を担うべく、K−12 各ディビジョンおよび玉川大学・他部署との連携・協働を更に推進し、子ども達への学習支援の充実化を図る。(0101-03)	【アカデミックサポートセンター長】 ● 9 年学びの技において、Google Workspace の機能を活かした ICT 利活用を盛り込んだカリキュラムを作成し、年間を通じて授業を実践した。（0101-02） ● ES センターは教育学部および農学部、TAP センターとの連携を図った。K-12 国際教育センターは、大学国際教育センターと連携しイベントを開催した。マルチメディアリソースセンターは、検定運営で教学部、スターレックドーム運営では継続学習センターや教師教育リサーチセンター等、各センターが新たな部署との連携・協働を図ることができた。（0101-03）	【アカデミックサポートセンター長】 ● Tamagawa Vision 100 の中長期目標を部署内の教職員が一体となって実現に向けて取り組む。K-12 として初めて開催する探究学習研究会が、全人教育の理念のもと玉川教育の強みを学内外に発信する場となるよう準備を進める。（0101-01） ● ES の運営が玉川教育における 12 の教育信条に沿った教育活動となるよう、部署内の教職員が活動目的を明確化し事業を展開する。（0101-03）
	【教務委員長】 ● K-12 のカリキュラムが、全人教育にそっているかの確認のため、引き続き K-12 学内研修会や K-12 教科会を行う。（0101-01） ● プランナーなどを使って計画的に学習できるよう指導する。さらに、学びの技や各自由研究の指導方法を共有し、進め方などの研修を実施する。（0101-02） ● 国際教育において、効率的に指導するために、各教科どの分野を指導するかを共有し、グローバル人材育成のカリキュラムを検討する。（0101-03）	【教務委員長】 ● K-12 のカリキュラムが、全人教育にそっているかの確認のため、引き続き K-12 学内研修会や K-12 教科会を行うことができた。（0101-01） ● プランナーなどを使って計画的に学習できるよう指導することができた。学びの技や各自由研究の指導方法を共有することができた。（0101-02） ● 国際教育において各教科実施していることの確認が十分できなかった。（0101-03）	【教務委員長】 ● K-12 のカリキュラムが指導要領に準じているかの確認を K-12 教科会で再確認する。（0101-01） ● 生涯学び続けることのできる能力を身に付けるため、プランナーなどで計画的に学習できるよう指導する。（0101-02）） ● 国際教育に関して、各教科できることを再確認し、カリキュラムを検討する。（0101-03）
	【生活委員長】 ● 全人教育の理念と IB 教育理念の基に、児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を行う。（0101-01） ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針の基に、児童生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校創りを家庭と共に行っていく。（0101-01）	【生活委員長】 ● 全人教育の理念の基に、児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を進める事ができた。（0101-01） ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針の基に、児童生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校創りを家庭と共に行う事が出来てきた。（0101-01）	【生活委員長】 ● 全人教育の理念の基に、児童生徒・保護者・教員による三位一体の充実した教育活動を推進する場面を増やす企画を立案する。（0101-01） ● 玉川学園「いじめ対策等防止」に関する基本方針の基に、児童生徒が主体的に学び、安心した学校生活を送り、いじめの起こらない学校創りを家庭と共に行い、事案が起きた場合の対処対応の研修を行う。（0101-01）

評価規準	2022 年度の課題・重点施策	2022 年度自己評価 2022 年度の課題・重点施策に対する**達成状況**	2023 年度の**課題と改善方法**（2022 年度の課題・重点施策）
環境（02）： **必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供** **Environment (02) :** **Providing essential structures, systems and resources** 規準(0201)：リーダーシップおよび統括体制 Standard(0201)：Leadership and governance ０２０１－０１ 学校は、プログラムの実践と現在行われている教育の改善をサポートするため、学習指導要領およびすべての IB 規則、規定、およびガイドラインを定期的に見直し、遵守すること。 ０２０１－０２ 学校の教育的リーダーシップチームには、IB プログラムの実践を成功に導く権限を与えられた IB の訓練を受けたプログラムコーディネーターを含めること。【IB ディビジョンのみ】 ０２０１－０３ 学校は、幅広くバランスがとれ、関連性の高いカリキュラムを提供し、地域社会の変化するニーズに対応する学習と指導の時間を編成すること。 ０２０１－０４ 学校は、K-12 教育課程、IB プログラムの運営と持続可能性を向上させるためのシステムとプロセスを運用し、見直しを行うこと。 ０２０１－０５ 学校は、K-12 教育課程と IB プログラムを維持し、さらに発展させるため資金確保とリソースの分配を行うこと。	【学園教学部長】 ● 中学校学習指導要領、及び、高等学校学習指導要領にのっとり、玉川学園の教育課程の実施を通して、その目標、内容、指導方法を再確認する。 ● （0201-01）新ディビジョン体制の安定的な運営を目指して、予算の効率的な運用が図れるよう、学園教学部が中心となり予算配分計画を立てる。K-12 の収支均衡を目指す。（0201-01） ● ハイブリット型の授業展開を確立するとともに、状況に応じて対面とオンライン授業を効果的に活用できるような環境作りを行う。（0202-01） ● 各個人の教師力向上を目指し、オンライン、及び、対面の研修に積極的に参加できるようサポートをする。（2003-02）	【学園教学部長】 ● 2022 度から実施の高校課程の新指導要領に則ったカリキュラムを計画通り実施した。(0201-01) ● 管理職研修にて、K-12 の収支の状況を共有し、学園教学部を中心として予算案を策定した。各部長かが K-12 全体を把握するように務め、予算説明、及び、決算報告を共同実施した。(0201-01) ● 対面授業を基本として日常の学習活動を展開した。新型コロナウイルス感染症への対応が３年目となり、感染状況に応じ、オンラインと対面併用のハイブリッド型の授業を展開することができた。（0202-01） ● 併設校サミットも急遽オンラインに切り替わるなど、感染状況の変化により、本年度も教師の個別の研修のサポートについては十分に行うことができなかった。(2003-02)	【学園教学部長】 ● 教務委員会と連携し、2021 年新ディビジョン体制スタートに当たり設定した K-12 教育課程の更新を実施する。(0201-01) ● K-12 収支均衡を目指して、幼稚部、及び、Secondary Program Division の具体的な改革プランを検討し、収支改善に向けての方向を定める。K-12 全体のバランスをとりながら、施設設備等の改修、改築、更新を計画的に進める。(0201-01) ● 状況に応じて適宜オンラインを活用出来る環境作りを、法人部門と連携しながら継続してサポートしていく。(0202-01) ● 各個人の教師力向上を目指し、オンライン、及び、対面の研修に積極的に参加できるようサポートをする。また、健康院、カウンセリング室と連携を図り、教員が安心して働ける環境作りに取り組む。（2003-02）
	【担当部長（幼稚部担当）】 ● ①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新を継続する。（0201-01） ● 2022 年度中にバイリンガル教育のための時間割、2023 年度中に 8 期の英語カリキュラムの完成を目指す。（0201-03） ● 感染状況に応じて柔軟に対応できるよう、オンライン環境の維持・改善につとめる。（0202-01） ● メーカーズルームとの連携を模索するための教員研修、見学等を実施する。（0202-05） 園内研修、学部講師を招いての研修を再開する。（0203-03）	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 週ごとに活動内容や環境設定を計画し、振り返りを行う「週日案」をもとに、年間を通じて個々の成長を促進するための環境づくりを行った。（0201-01） ● バイリンガル教育の推進にあたり、年少・年中・年長の３学年の活動タイムテーブル、および年少・年中の英語カリキュラムを完成した。（0201-03） ● 各学期の保護者面談をオンラインで実施した。（0202-01） ● 7 月末に計画した各研修は、園内における新型コロナウイルスの拡大にともない中止となった。（0202-05, 0203-03）	【担当部長（幼稚部担当）】 ● ①目標やねらいの設定 ②活動計画と環境設定 ③活動の振り返りと成長の記録 ④内容の改善と更新 上記サイクルによるカリキュラム更新の継続。（0201-01） ● 2023 年度中に 8 期の英語カリキュラムの完成を目指すとともに、学びのポートフォリオ作成に着手する。（0201-03） ● 2022 年度 7 月に実施できなかった教員研修について内容を再検討し、実施に向けて計画を進める。（0202-05,0203-03）
	【教育部長（K-5 担当）】 ● ハイブリッドによる授業を展開しつつ、オンラインで授業に参加している児童の理解度を検証しつつ、進めていく。（0201-01） ● 教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の充実を図り、Bilingual プログラムの推進を行う。（0201-02） ● Secondary Program Division および IB Programs Division との英語科研修会を充実させていく。（0201-04） ● SH の個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。（0202-01） ● BSH の時間の運用、活用に関しては、これまでの経験を生かし、より一層の充実を図る。（0202-02） ● 教科部会を中心に授業研究を推進し、若手教員を育てる上での induction Program を作成し実践する。（0203-01） ● EP クラスの授業研究（3 年生以上の教科指導）を実施し、授業力向上を今後も継続的に図る。（0203-01） 各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りを行う。今後も継続的に宿泊行事等にも外国籍教員の積極的な参加を促し、チームで指導に当たる体制を作る。（0203-03）	【教育部長（K-5 担当）】 ● 全学年全教科においてハイブリッドによる授業を展開し、学習指導要領の内容を概ね指導できたが、理解の定着に関してはオンライン参加児童の理解度は低下傾向にあり。（0201-01） ● 教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の充実を図ることができ、英語力の向上が見られた。（0201-02） ● Secondary Program Division との英語科研修会は実施できなかったが、IB Programs Division との教務主任同士による打ち合わせは年間 7 回実施した。（0201-04） ● SH の個別教材を充実させ、サポート体制を整備してきたが、担当教諭の不足は否めない。（0202-01） ● BSH の時間の活用に関しては、日本語と英語による指導の比率も系統的に且つ計画的に実施することができた。（0202-02） ● コロナ禍という事情より、授業点検の実施、各教科部会主体の授業研究は国語科と算数科中心に 4 回のみの実施となったが、BLES 教員に関しては、教務主任（K-5BLES 担当）による 19 人全員の授業点検を実施した。（0203-01） ● JP クラスの教員が EP クラスの教員に向けて模擬授業を実施し、教師相互に学び合う機会とし、授業力向上に繋げられた。（0203-01） ● 各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導体制は構築されている。宿泊行事（3・4 年生林間学校）に関しても、日本人と外国籍教諭の協力のもと実施することができた。（0203-03）	【教育部長（K-5 担当）】 ● ハイブリッドによる授業を展開しつつ、オンラインで授業に参加している児童の成績評価の付け方について各教科一覧にし、明確化したものをブラッシュアップする。（0201-01） ● 教務主任（K-5BLES 担当）を中心に、JP、EP 両クラスのカリキュラムの構築と学習内容の充実を図り、Bilingual プログラムの推進を行う。（0201-02） ● Secondary Program Division および IB Programs Division との英語科研修会を計画的に実施し充実させていく。（0201-04） ● SH の個別教材を充実させると共に、専門の担当教諭を充て、充実を図る。（0202-01） ● BSH の時間の運用、活用に関しては、これまでの経験を生かし、より一層の充実を図る。（0202-02） ● 教科部会を中心に授業研究を推進し、若手教員を育てる上での induction Program を作成し実践する。（0203-01） ● JP クラスの授業研究を実施し、授業力向上を今後も継続的に図る。（0203-01） ● 各会議資料および業務連絡の英語化を進め、より共通意識を持って指導出来る体制作りを行う。今後も継続的に宿泊行事等にも外国籍教員の積極的な参加を促し、チームで指導に当たる体制を作る。（0203-03）
	【教育部長（6-12 担当）】 ● 各教科、2022 年度から実施される高等学校新学習指導要領に基づき Secondary Program Division の教育課程を再確認する。(0201-01) ● アカデミックサポートセンターと協力しながら、SH・講座のプログラムを検討・実施する。（0202-02） ● 2022 年度、6 年生まで広がる BYOD の活用に向けた、ICT スキル研修を実施し、各教科が共有できるシステムを構築する。(0203-02,03) ● 生徒の主体性を涵養するために、東京私立中学高等学校協会や NITS の研修に参加し、研修内容を共有する。(0203-02)	【教育部長（6-12 担当）】 ● 2022 年度から実施された高等学校新学習指導要領に基づいた教育課程について、各教科確認ができた。（0201-01） ● SH・講座のプログラムについてアカデミックサポートセンターと検討することができた。（0202-02） ● BYOD の活用の実践の共有から、各教科でできる内容の検討を行った。(0203-02,03) ● 生徒の主体性を涵養するための研修に参加する件数が増え、研修内容を共有することができた。(0203-02)	【教育部長（6-12 担当）】 ● 玉川学園の教育課程が、高等学校新学習指導要領に基づいたものになっているかを再確認する。（0201-01） ● Primary Division のプログラミング教育と高校課程の情報科をつなぐ 6 年生から 9 年生までのカリキュラムを検討する。（0201-01） ● 引き継き、ICT 活用授業について各教科検討し、全体会などで共有する。(0203-02,03) ● SH の新しい講座の実施に向けて、引き続き検討する。（0202-02）

規準(0202)：生徒のサポート Standard(0202)：Student support ０２０２－０１ 学校は、プログラムの実施に関わる人材、自然資源、設備、およびバーチャル環境におけるリソースを提供すること。 ０２０２－０２ 学校は、生徒への適切な学習サポートの必要性を確認し提供すること。 ０２０２－０３ 学校は、生徒と教師の社会的および心身の健全性、感情的、肉体的な幸福を促進すること。 ０２０２－０４ 学校は、生徒がプログラムで成功し、次の段階についての計画を手助けするキャリアガイダンスとサポートを提供すること。 ０２０２－０５ 学校は、プログラムの実施を強化する知恵と専門知識を得るために、より広いコミュニティーとの関係を構築すること。【K-16 連携等】 規準(0203)：教師のサポート Standard(0203)：Teacher support ０２０３－０１ 学校は、教師が最新のリソースを使用し、プログラムの実践について定期的に見直しを行うのを確認すること。 ０２０３－０２ 学校は、学校リーダーシップメンバーと教師が適切かつ時宜を得た研修に参加し、実践についての情報を得ていることを確認すること。 ０２０３－０３ 学校は、プログラムの実践において、教師が効果的に協働するための時間とその他のリソースを提供すること。	【教育部長（IB 担当）】 ● Continue listening to the opinions of all shareholders on the effectiveness of the current system and any suggestions for improvements. The IB has changed this system numerous times in the past based on such opinions, and will remain continually open to doing so in the future. (0201-01,03) 現行の制度の有効性や改善点など、関係者間で情報を共有し、必要に応じて適宜変更を行なう。過去にさまざまな制度を改善してきた経緯があり、今後も継続的に改善する方向で検討していく。(0201-01,03) ● The Head of IB Programs needs to more proactively search for a greater variety of such opportunities, as well as construct a multi-year development plan. Allocating and placing teachers' individual professional development budgets under the control of teachers needs to be researched and implemented. (0201-02) 教育部長（IB 担当）は、より積極的に教員研修の機会を探り、複数年にわたる開発計画を立て、教員個人研究費（Professional Development)の予算編成の可能性を模索する。(0201-02) ● While more time and collaboration went into this year's (2022) IB budget than in any other year before, greater collaboration among more shareholders needs to be ensured, as well as more planning time. (0201-04,05) 今年度（2022 年度）の IB 予算編成では、過去のどの年よりも多くの時間を費やし協力体制で臨んだ。次年度はより多くの関係者と事前に話し合い、時間をかけて計画を立てる。(0201-04,05) ● Both Morning Support classes as well as Study Halls will require continual observation and change to ensure they are fit for purpose for the IB Division's changing clientele. The Director of Teaching and Learning will continue to monitor the situation through first-hand observations as well as in regular meetings with key staff, including the MYP Coordinator, EAL Coordinator and Language B Subject Leader. (0202-02) モーニングサポートクラスおよびスタディーホールは、変化していく IB Programs Division の生徒層に対応できるよう、継続的に観察し、必要に応じて見直す。教務主任（Director of Teaching and Learning） は、MYP コーディネーター、EAL コーディネーター、Language B の教科主任など、主となる教員との定期的なミーティングや現場の観察等を通して、状況を確認していく。(0202-02) ● Two new, multi-grade level homeroom leaders will be added to this system in 2022. Job descriptions are currently being written by the Senior Leadership Team and will be in place for April 2022. Their addition will be crucial in decentralizing homeroom decision-making and action, by providing homeroom teams with more accessible support, while also alleviating some of the burden from the Lead Teachers for Student and School Affairs. (0202-03) 2022 年度から配置する学年主任の業務内容について管理職で精査する。学年主任は、担任をより身近でサポートすることになるため、担任業務の分散、学務主任（IB 担当）、生活主任（IB 担当）の負担軽減に繋がるよう検討する。(0202-03) ● Continue listening to the opinions of all shareholders on the effectiveness of the current system of the meetings and collaborative planning and any suggestions for improvements. The IB has changed this system numerous times in the past based on such opinions, and will remain continually open to doing so in the future. (0202-03) 現行の会議実施方法や協働計画の有効性や改善点など、関係者間で情報を共有し、必要に応じて適宜変更を行なう。過去にさまざまな運用を改善してきた経緯があり、今後も継続的に改善する方向で検討していく。(0202-03)	【教育部長（IB 担当）】 ● The IB budgetary system was completely overhauled in 2022 to insure greater decentralization and collaboration into the budget allocation process. Firstly, as many funds as possible were removed from discretionary categories and inserted into the overall Subject lump-sum fund. This lump-sum Subject sum was then shared with all Subject Leaders in a worksheet format, in June, in order to allow them time to collaborate with their department members in estimating the next year's spending priorities and requests. This was due in early Sept. The IB Head collected and combined these subject requests into an overall worksheet which totaled overall deficits or surpluses, which was then shared with the MYP and DP Coordinators. The Coordinators then held a series of reconciliation meetings with the Subject Leaders in order to bring total spending by the Departments into agreement with the lump-sum Subject allocation. Feedback on this new process has been positive and it seems to have increased transparency, collaboration and decentralization into the process.(0201-04,05) IB の予算策定制度を 2022 年に全面的に見直し、予算配分プロセスへの意思決定を分散化し、共同で策定した。まず、より多くの予算項目から可能な限り多くの予算を教科予算に配分し、教科で使用できる一括資金を設定し、総額はワークシート形式で 6 月に全教科主任に共有したうえで、次年度の支出の優先順位と希望額を教科主任同士で見積もる時間を設けた。教育部長（IB 担当）が各教科からの希望額を全体のワークシートにまとめ、MYP と DP のコーディネーターと共有した後、コーディネーターは教科主任との会議を重ね、各教科への配分を調整した。この新しい方法により、策定プロセスの透明性、共同作業、意思決定の分散化を進めることができた。(0201-04,05) ● The Director of Teaching and Learning, in consultation with the MYP Coordinator, former EAL Coordinator and Language B Subject Leaders have together structured and scheduled Morning Support classes and afternoon Study Halls so that they continue to reflect the needs of a changing student population. (0202-02) 教務主任（Director of Teaching and Learning）は、MYP コーディネーター、前 EAL コーディネーター、Language B 教科主任と協議の上、変化する生徒のニーズに応えるために、Morning Support クラスと午後の Study Hall の構成およびスケジュールを一緒に検討し、決定した。(0202-02) ● Two multi-grade level homeroom leaders (gakunenshunnin) have been added to the IB leadership team from April 2022 and their effects have been immediate and widespread. They have effectively supported homeroom teacher teams (g6-9 and g10-12 respectively) and decentralized decision making away from the Lead Teachers of Student and School Affairs. (0202-03) 2022 年 4 月から IB 管理職に 2 名の複数学年担当の学年主任が加わり、担任チーム（それぞれ g6-9 と g10-12）を効果的にサポートし、学務主任、生活主任の意思決定を分散することができた。(0202-03)	【教育部長（IB 担当）】 ● This system will be continued into 2023 with some minor changes to increase its effectiveness further. (0201-04,05) 予算策定制度は 2023 年も継続し、更に効果を高めるために若干のマイナーチェンジを実情に合わせて行う。(0201-04,05) ● This system will be continued into 2023 with some minor changes to increase its effectiveness further. (0202-02) Morning Support や Study Hall などの運用方法は、2023 年度も継続し、更に効果を高めるために若干のマイナーチェンジを実情に合わせて行う。(0202-02) ● Continue to monitor this system as the student population grows; at some point in the future we may have to add more multi-grade level homeroom leaders. (0202-03) 2 名体制の複数学年の学年主任のシステムを継続していきながら、今後の生徒数の増加にあわせ、複数学年の学年主任を追加する必要があるかを検討する。(0202-03)

環境（02）： **必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供** Environment (02)： Providing essential structures, systems and resources	【アカデミックサポートセンター長】 ● BYOD 導入 2 年目に入り対象学年も 6－10 年生と広がることで、更に多くの教科で ICT を十分に利活用した授業が実施できるよう、教員・子ども達への支援方法について学園教学部と連携を図り検討する。（0201-01,0202-02,0203-01） ● 2022 年度に 9 年生以上の SH を開始することで、ES は K-12 全学年において事業を展開したこととなる。既存事業は内容をさらに充実させ、新規事業については安全で安定したプログラムの提供を図る。（0202-02） ● 海外交流校との派遣型および受入型の国際交流プログラムにおいて、既存プログラムと新規プログラムの運営を安全に提供することを心掛け、一年を通して定期的に見直し K-12 全体の実施計画を検討する。0203-02）	【アカデミックサポートセンター長】 ● My PC を十分に利活用した授業の推進計画として、K-12 EdTech 活用教育マスタープランを作成し教員への支援を進めた。My PC を使用する子ども達への支援方法として、引き続きサポートデスクを設置し、昼休みや放課後の時間帯を使って対応にあたった。（0201-01,0202-02,0203-01） ● 6 年生以上の SH では、玉川での新しい学びに対して正課と連動した指導体制を構築したことで、多数の新入学生(7・10 年生)が受講した。（0202-02） ● コロナ禍の影響が和らぎ始めた 7 月に派遣プログラムの再開となった。年間を通して実施したプログラムはすべて 9 年生以上を対象としたものであったが、3 年ぶりに海外交流校との国際交流が可能となった。（0203-02）	【アカデミックサポートセンター長】 ● 部署内の各課が、K-12 の附置機関としての役割を十分に担うため、教育学習支援体制のあり方について再確認し教育の改善につなげる。（0201-01） ● 検定運営では検定級の取得が進路に直結する生徒に対して、継続学習センターや進路相談室、ES との連携のもと、各種検定の受験機会を増やすことや検定対策講座の開講等、進路実現のサポートを提供する。（0202-04） ● K–12 探究学習研究会を開催する際は、教員の探究学習に関する指導力向上を促進する研修機会となるよう、プログラム内容を構築する。（0203-02）
	【教務委員長】 ● K-12 教科会において、新学習指導要領に基づいた教育課程の観点別評価方法について再検討する。（0201-01） ● SH や講座のあり方についてアカデミックサポートセンターと協力しながら検討する。（0202-02）	【教務委員長】 ● K-12 教科会において、新学習指導要領に基づいた教育課程の観点別評価方法について再検討を行った。（0201-01） ● SH や講座のあり方について検討ができた。（0202-02）	【教務委員長】 ● 教務主任会において補習のあり方について検討する。（0202-02） ● 教員の研修について検討し、実施する。（0203-01）
	【学務委員長】 ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築・運用し、充実を図ることを継続していく。（0202-05,0203-03）	【学務委員長】 ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークが構築されている。（0202-05,0203-03）	【学務委員長】 ● CHaT Net を有効に活用し、各ディビジョンでの運用の仕方を共有し、玉川学園独自の親と子と先生のネットワークを構築し、充実を図ることを継続していく。（0202-05,0203-03）
	【生活委員長】 ● 児童生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと協力しながら、安心な体制と環境の提供を継続する。（0202-03） ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する。（0203-03）	【生活委員長】 ● 児童生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと協力しながら、安心な体制と環境の提供を継続する学校生活が安定してきた。（0202-03） ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する検討と対応が安定してきた。（0203-03）	【生活委員長】 ● 児童生徒の心のケアをサポートするために、スクールカウンセラーと児童生徒、教員、家庭との情報を共有しながら、安心な体制と環境の提供を継続する。（0202-03） ● 教職員の定期的な健康診断とストレスチェックを行い、教職員のカウンセリングを含め、安心な職場環境と勤務体制の提供を継続する。（0203-03）
	【管理運営部門（人事部）】 ● 人材確保においては、引き続き、収支改善に向けた人件費の適正化が課題である。人件費枠の策定の他、各ディビジョンの教員構成について関係部署と検討したい。（0201-05,0202-01） ● 在宅勤務制度の実施状況を検証する。引き続き、教職員の柔軟な働き方を検討し、健全な職場環境の整備に取り組む。（0202-03,0203-03） ● 引き続きコロナ禍での研修実施が予測されるため、オンデマンド研修のメリット・デメリットを検証し、Tamagawa Vision100（2029）の達成に向けて準備を進めている研修計画に生かす。（0203-03）	【管理運営部門（人事部）】 ● 人件費適正化の目標値としている人件費比率 50%～55%に対し、2022 年度は 55%を超える見込となっている。また、専任教諭・嘱託教諭・常勤講師・非常勤講師の人員構成も検討するべきと考える。（0201-05,0202-01） ● 新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者や無症状の感染者が、「学校法人玉川学園教職員の在宅勤務に関する規程」に基づき、在宅勤務の上限日数にかかわらず勤務することにより、事業継続性の確保に資することができた。（0202-03,0203-03） ● 令和 2 年 4 月以降の新任課長を対象とした「管理職のための労務基礎知識」に係る研修を実施した。また、課長以下の事務職員を対象とした階層別研修「ベーシック研修（各階層ごと）」と、50 歳以上の教職員を対象としたテーマ別研修「ライフプランセミナー」をオンラインで実施した。3 月には「新採用教職員研修」の実施を予定している。（0203-03）	【管理運営部門（人事部）】 ● 人材確保には、引き続き、収支改善に向けた人件費の適正化が課題である。人件費枠の策定の他、各ディビジョンの教員の年齢構成や職種構成も念頭に、関係部署と検討したい。（0201-05）（0202-01） ● 引き続き、教職員の柔軟な働き方について検証し、健全な職場環境の整備に取り組む。（0202-03,0203-03） ● 従来、対面を基本としてきた研修と比べオンライン研修の出席率が高いため、それぞれの研修のメリット・デメリットを検証し、今後の研修計画に生かす。また、新たに階層別研修「スキルアップ研修」を計画している。（0203-03）
	【管理運営部門（経理部）】 ● 令和 3 年度も収容定員超過率の状況等から厳しい収支状況となることが予測されるため、引き続き学校種別毎の収支改善に向けた取り組みが課題である。（0201-05） ● 引き続き令和 3 年度決算に係る収支分析結果を学園部長会へ報告する。また、収支改善に向けた学校種別毎の教職員構成について、関係部署との調整を行う。（0201-05）	【管理運営部門（経理部）】 ● 令和 3 年度の K-12 入学定員充足率・収容定員充足率は改善傾向となったが微増に留まり、いずれも未充足となっている。収支決算については依然厳しく、特に人件費比率が高い状況である。こうした学校種別毎の分析結果について学園部長会において報告し、今後も生徒の確保と段階的に標準教員数に近づける等の収支改善に向けた取り組みが課題であることを共有した。（0201-05） ● 教職員構成については、十分な調整ができなかった。（0201-05）	【管理運営部門（経理部）】 ● 収容定員が未充足である状況に加え、社会情勢に伴う光熱水費等経費の増加が予測されるため、生徒数の増加等引き続き学校種種別（ディビジョン）毎の収支改善に向けた取り組みが課題である。（0201-05） ● 令和 4 年度決算に係る収支分析の結果について学園部長会へ報告する他、収支改善に向けた教職員構成について関係部署との調整を行う。（0201-05）

環境（02）： **必要不可欠な構造、システムおよびリソースの提供** Environment (02)： Providing essential structures, systems and resources	【管理運営部門（総務部）】 ● 各自治体ともアフターコロナでの連携活動を模索し始めており、締結している 7 つの自治体の情報収集を積極的に行い、児童・生徒が地域社会において学習できる機会を提供する。(0201-03) ● Campus Master Plan に基づき、自然資源を有効活用した施設・設備の提供を図る。(0202-01) ● 引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修中長期計画の立案を行う。(Campus Master Plan)（0202-01） ● SDGs や Society5.0 を視野に入れた Campus Master Plan の立案。(0202-01)	【管理運営部門（総務部）】 ● 前年度同様、包括連携協定を締結している 7 つの自治体とも、コロナ禍での活動を模索している状況であることは把握できたが、具体的な児童・生徒が地域社会において学習する機会を提供するまでには至らなかった。(0201-03) ● 木材低温乾燥装置が北斗館に導入され、学内伐採材を乾燥させ建材や教材として活用した。(0202-01) ● 11 月に施設中長期計画(新築・改修・解体)の実施予算を提出した。(0202-01) ● 現在、新設施設として検討している Sports Center SANITAS(新体育館・屋内プール)、スポーツエリア棟、トレーニング棟は SDGs 及び感染症対策を配慮した施設として計画している。(0202-01)	【管理運営部門（総務部）】 ● 各自治体ともアフターコロナでの連携活動を模索し始めており、締結している 7 つの自治体の情報収集を積極的に行い、児童・生徒が地域社会において学習できる機会を提供する。(0201-03) ● Campus Master Plan に基づき、自然資源を有効活用した施設・設備の提供を図る。(0202-01) ● 引き続き、キャンパスの安全・安心を維持するべく、校舎、施設、設備の更新・改修中長期計画の立案を行う。(Campus Master Plan)（0202-01） ● SDGs や Society5.0 を視野に入れた Campus Master Plan の立案。(0202-01)

評価規準	2022 年度の課題・重点施策	2022 年度自己評価 2022 年度の課題・重点施策に対する**達成状況**	2022 年度自己評価 2023 年度の**課題と改善方法**（2022 年度の課題・重点施策）
文化（03）：肯定的な学校文化の創造 Culture (03)： Creating positive school cultures 規準(0301)：方針の実践を通じた文化 Standard(0301)：Culture through policy implementation ０３０１－０１ 学校は、可能な限り多様な生徒が教育にアクセスできるようにすること。 ０３０１－０２ 学校は、すべての生徒が最大の可能性を発揮することをサポートする文化を創造するために、多様性を受け入れるインクルーシブな方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。 ０３０１－０３ 学校は、学問の清廉性を保つために必要な学問的誠実性についての方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。 ０３０１－０４ 学校は、複数の言語でさまざまな方法のコミュニケーションを行い、多様な文化の理解を育成するのに役立つ言語方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。 ０３０１－０５ 学校は、生涯学習と継続的な成長を目指す学校文化の創造につながる評価方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行うこと。 ０３０１－０６ 学校は、教育理念および IB が定めた方針を実施、伝達し、定期的に見直しを行い、それらが一貫性をもち、全人教育および IB の理念を反映したものかを確認すること。	【学園教学部長】 ● 海外在住者のオンライン入試、及び、オンラインによるガイダンス実施等を積極的に取り入れ、より玉川学園を受験しやすい環境作りを行う。(0301-01) ● 教員間の連絡文章等、すべて日本語英語を併記し、バイリンガル環境の充実を図る。またバイリンガルデーの実施等、園児児童生徒のバイリンガル環境の拡充を図る。(0301-04) ● 教務委員会を中心とし、K-12 全体の評価方針を継続検討する。IB の評価方法を参考にしながら、玉川学園の園児児童生徒のよりよい成長に繋がる評価方法を探る。(0301-05)	【学園教学部長】 ● 全 Division においてローリング入試を実施した。(全 20 件：幼稚部 3 件、Primary7 件、Secondary1 件、IB9 件）オンラインガイダンス、オンライン入試を適宜実施した。(0301-01) ● 職員連絡等（CHaT Net 等）の日英併記を進め、K-12 全体でバイリンガルの環境作りに努めた。English day の実施等、各ディビジョンでバイリンガルの環境作りに努めた。(0301-04) ● 評価の改善に関しては、各教科レベルで実施しており、K-12 全体の評価方針の共有の検討は不十分であった。(0301-05)	【学園教学部長】 ● 海外在住者のオンライン入試、及び、オンラインによるガイダンス実施等を積極的に取り入れ、より玉川学園を受験しやすい環境作りを行う。また国内入試のあり方も見直し、より多くの受験生を確保できる方策を探る。(0301-01) ● K-12 全体でバイリンガルの環境作りを継続して行う。外国籍教員に対しては、より全人教育の理解を深めてもらうために、研修を実施する。(0301-04) ● 教務委員会を中心とし、K-12 全体の評価方針を継続検討する。IB の評価方法を参考にしながら、玉川学園の園児児童生徒のよりよい成長に繋がる評価方法を探る。(0301-05)
	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 入試広報活動におけるオンラインの活用を継続する。またオンライン環境の設定・維持のため、年度当初には各家庭との通信テストを実施する。(0301-01) ● 日課、時間割などの英語表記版を作成する。(0301-04)	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 2 回の説明会〔6・9 月〕、入試相談会〔5～6 月〕をオンラインで行い、現地での学校見学会〔9 月〕を対面で実施した。(0301-01) ● 英語活動に関するタイムテーブルの作成に取り組んだ。(0301-04)	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 入試広報および説明、学校案内等については、今後もオンラインと対面のハイブリッドで継続する。(0301-01) ● アカデミックサポートセンターと連携し、家庭を支えるサポートシステム（朝の預かり/ランチサポート）を新たに構築する。(0301-01) ● 母語（日本語）をベースとしたバイリンガル環境の設定やカリキュラムの更新に加え、自国および他国の文化を学ぶ機会を設定する。(0301-04)
	【教育部長（K-5 担当）】 ● 対面式に限定せず、オンラインによる志願者対象の個別入試相談を実施し、日本国内および海外在留者との面談の機会を増やし、志願者増に繋げる。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプの再開、またそれ以外の宿泊を伴う行事（スキーキャンプ、久志農場）を検討する。(0301-01) ● 5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムを実現させ、低学年における国際理解教育を推進する。(0301-04) ● 1～5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05)	【教育部長（K-5 担当）】 ● 対面式に限定せず、オンラインによる志願者対象の個別入試相談を実施し、日本国内および海外在留者との面談の機会を増やし、今年度 3 名のオンライン受験を実施した。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプは再開することができた。また、それ以外の宿泊を伴う行事（スキーキャンプ、久志農場）の検討は中断している。(0301-01) ● 5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムも 3 年続けて見送ることになった。(0301-04) ● 1～5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の学習サポートの強化（教材の準備等含め）を図ることができた。(0301-05)	【教育部長（K-5 担当）】 ● 対面式に限定せず、オンラインによる志願者対象の個別入試相談を実施し、日本国内および海外在留者との面談の機会を増やし、志願者増に繋げる。(0301-01) ● 北海道 ES サマーキャンプの再開に伴い、それ以外の宿泊を伴う行事（スキーキャンプ、久志農場）を検討する。(0301-01) ● 5 年生におけるオーストラリア海外交流プログラムを実現させ、低学年における国際理解教育を推進する。(0301-04) ● 1～5 年生の ES プログラムを行う中で、SH の見直しや学習サポートの強化を継続的に図り、志願者増へと繋げる。(0301-05)
	【教育部長（6-12 担当）】 ● 6 年生から導入する BYOD によって、個別最適な学びの授業ができる各教科のカリキュラムを構築する。(0301-02) ● 各教科において主体的な学習姿勢を育成するためのカリキュラムを検討し実施する。(0301-05) ● コロナ禍およびアフターコロナでも、国際教育の中にオンラインでの交流を数多く実施する。(0301-04) ● 大学進学に対応する進路指導において、データ収集と分析に注力し進路指導に反映させる。(0301-05) ● 教員に教育の 12 信条の研修を実施する。(0301-06) ● 高校入学選抜試験に向け、オンラインによる学校紹介と志願者対象の個別入試相談を充実させ、志願者増に繋げる。(0301-06)	【教育部長（6-12 担当）】 ● 6 年生から導入する BYOD によって、個別最適な学びの授業ができる各教科のカリキュラムを検討し実施できた。(0301-02) ● 各教科において主体的な学習姿勢を育成するためのカリキュラムを検討し実施することができた。(0301-05) ● コロナ禍における国際教育では、オンラインでの交流を実施することができた。(0301-04) ● 大学進学に対応する進路指導において、データ収集と分析に注力し進路指導に反映することができた。(0301-05) ● 児童・生徒への自校教育カリキュラムの実践により、教員にも研修を実施することができた。(0301-06) ● 中学高校の入学選抜試験に向け、オンラインによる学校紹介と志願者対象の個別入試相談を充実させることができた。(0301-06)	【教育部長（6-12 担当）】 ● BYOD に対応したカリキュラムの検討を続ける。(0301-01) ● オンラインでの国際交流について検討し、カリキュラムを構築する。(0301-04) ● 各教科、特別活動、道徳などで国際教育を行っている活動を調査し、学齢に応じたカリキュラムを模索する。(0301-04) ● 各教科、主体的な学習姿勢を育成するカリキュラムについての検討を引き続き行い、さらに評価について検討する。(0301-05) ● 中学高校の入学者増加のため、各塾や各中学校訪問、オンラインによる学校説明など HP を含めた入試広報体制の充実を図る。(0301-06)

文化（03）：肯定的な学校文化の創造 Culture (03)： Creating positive school cultures	【教育部長（IB 担当）】 ● Data from Feb. 2022 entrance exams will need to be analyzed and the Senior Leadership Team debriefed on any issues faced resulting from the current exam regime. Proposals from Subject Leaders on ways forward will continue to be encouraged and considered. (0301-01) 2022 年 2 月の入試データを分析し、現行の入試体制から生じる課題については、管理職による報告が必要である。今後の進め方に関する教科主任からの提案は、引き続き検討する。(0301-01) ● This will continue to be a regular annual process that will be assigned by the Director of Teaching and Learning to the MYP and DP Coordinators, as well as to Subject Leaders. （0301-03,04,05） IB プログラム全体の主要な方針の見直しは、教務主任（Director of Teaching and Learning）のもと MYP コーディネーター、DP コーディネーター、教科主任が担当し、毎年定期的に行う。(0301-03,04,05) ● This will need more careful consideration by the IB Senior Leadership Team who will need to identify key personnel to lead and participate in this process. (0301-06) IB の教員と生徒が、IB および全人教育の哲学を両方学ぶことができるよう、IB の管理職はより慎重に検討を重ね、主導する主要教員を決める必要がある。(0301-06)	【教育部長（IB 担当）】 ● Data from the Feb. 2021 and 2022 entrance exams have been analyzed by the Senior Leadership Team, IB Coordinators and Subject Leaders and has led to a new proposal for the 2023 testing regime. The suggestions include trimming the exams down to 3 in number from the previous 4, and will be limited to an English exam (in English), a Japanese language exam (in Japanese), and a Mathematics exam (in English) for efficiency and simplicity. Another proposal will be to eliminate student and parent interviews, as these have been shown to have very little value in the acceptance process. (0301-01) 2021 年 2 月と 2022 年 2 月の入試のデータを、管理職、コーディネーター、教科主任で分析し、2023 年の試験体制についての提案をした。提案の内容は、試験の数をこれまでの 4 つから 3 つにし、英語試験（英語実施）、日本語試験（日本語実施）、数学試験（英語実施）に限定し、効率化と簡略化を図る。また、合格判定の際に大きな判断基準とならない生徒・保護者同伴面接を廃止する案も含めて検討している。(0301-01)	【教育部長（IB 担当）】 ● These proposals will be formalized and turned in to the Academic Affairs section in late-Feb. 2023 for possible implementation from April 2023 on all rolling and regular entrance examinations. The aforementioned team will continue to analyze data from these exams and recommend possible changes every two years.(0301-01) 入試の方法の変更は、2023 年 2 月下旬に会議体に諮り、2023 年 4 月からすべての入学試験で実施する予定である。その際に、管理職や教科主任を初めとするチームは、引き続き、これらの試験のデータを分析し、実情に合わせ、2 年ごとに変更の可能性を検討していく。(0301-01)
	【アカデミックサポートセンター長】 ● 子ども達が国際交流や異文化理解について国内にいても興味を持ち活動できるよう、CHaT Net のコンテンツやオンライン交流等の ICT を活用した新規事業を検討する。(0301-01) ● MMRC では生涯学習の推進事業として継続学習センターと連携・協働し、スターレックドームを活用したシニアおよび親子向けの天文学講座を検討する。(0301-05)	【アカデミックサポートセンター長】 ● CHaT Net 上に国際交流プログラムの全てを掲載するコンテンツを完成させ、子ども達・保護者がいつでも内容を確認できるよう環境を整えた。また、オンライン開催の国際社会で活躍するビジネスリーダー育成プログラム Race 4 Good に初めて参加した。40 名以上の児童・生徒が海外生徒の前でプレゼン等を行った。(0301-01) ● 継続学習センターとの連携・共同事業として、スターレックドームを活用した公開講座を 1 年間で 9 回開講した。(0301-05)	【アカデミックサポートセンター長】 ● 語彙力や読解力の向上を目指した読書活動の推進計画については、各ディビジョンと MMRC の連携・協働のもと、推奨図書の選定とデジタル媒体の有効活用について検討する。(0301-01) ● SH を受講する子ども達の特性を調べ、個別最適な学びの環境と自学自律を目指した学習姿勢の育成についてその関係性を分析し、運営体制の見直しを図る。(0301-05)
	【教務委員長】 ● 2022 年度から始まる BYOD に向けて、協働的な学びができるよう各教科検討する。(0301-01) ● 継続的に成長しようとする姿勢や生涯学習しようとする姿勢を育むためのカリキュラム作りについて検討する。(0301-05)	【教務委員長】 ● 今年度から始まった BYOD を活用する教材を各教科検討することができた。(0301-01) ● 継続的に成長しようとする姿勢や生涯学習しようとする姿勢を育むためのカリキュラム作りについて、各教科検討することができた。(0301-05)	【教務委員長】 ● 来年度も引き続き、BYOD を活用する教材の検討を各教科行う。さらに、それぞれの教科の実践例を共有する。(0301-01) ● 各教科、全人教育の理念を反映するカリキュラムの確認と再構築を行う。(0301-06)
	【学務委員長】 ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を検討し、with コロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育を検討する。入学、卒業関連行事を K-12 の連携を通して見直しを行う。(0301-02)	【学務委員長】 ● 新ディビジョン体制の 2 年目を迎え、行事のあり方を検討し、with コロナの時代でも実施可能な玉川学園の行事教育を模索した。また、入学、卒業関連行事を K-12 の連携を通して見直しを行った。(0301-02)	【学務委員長】 ● 新ディビジョン体制における行事のあり方を継続検討し、with コロナ時代でも実施可能な玉川学園の行事教育を検討する。入学、卒業関連行事を K-12 の連携を通して見直しを行う。(0301-02)
	【生活委員長】 ● 各ディビジョン体制の中で各種規程の確認を継続し、新しい生活様式を鑑みながら服装規程を継続検討する。(0301-02) ● クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針を創り上げる。(0301-01)	【生活委員長】 ● 各ディビジョンの中で各種規程の確認を継続し、新しい生活様式を鑑みながら服装規程の検討ができた。(0301-02) ● クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針の検討を進めることができた。(0301-01)	【生活委員長】 ● 各ディビジョンの中で各種規程の確認をし、新しい生活様式を鑑みながら学齢に応じた服装規程の検討を進める。(0301-02) ● クラブ活動の在り方に関して、文科省スポーツ庁の指針を基に生徒の興味関心のあるクラブ活動への取り組みをより深化させ、生徒一人ひとりの強い意志と主体性に基づいた達成感のある活動運営指針の検討を進め、クラブ体制を再構築する。(0301-01)
	【管理運営部門（教育情報・企画部）】 ● 前述のとおり、総合サイトでは理念・方針の理解を促進することができたが、次年度以降は K-12 サイトでの周知ならびに理解の促進のための方策が必要と考える。現在 K-12 サイトトップの改修を進めているが、加えてトップの配下ページもリニューアルし、Web 訪問者の理解度促進につなげる。さらにニュースやレポートの掲載も積極的に行い、理念や方針に基づいた玉川教育の実践状況を伝えていきたい。(0301-06)	【管理運営部門（教育情報・企画部）】 ● 教育理念や教育方針は、Web サイトへの掲載の他、玉川大学・玉川学園総合パンフレットを通じて周知を行った。特に前年度着手した総合サイトや K-12 サイトトップのリニューアルに続き、今年度は K-12 配下ページのリニューアルにも着手し、本学の強みや教育活動の一貫性が前面に押し出せるよう改修を進めた（3 月公開予定）。今回のリニューアルを通じて、本学の理念方針に基づいた教育実践のあり方が明確に表現でき、Web 訪問者の理解度促進につなげられていると考察している。(0301-06)	【管理運営部門（教育情報・企画部）】 ● 総合サイト、K-12 サイトトップ、K-12 配下ページのリニューアルにより、「本学の理念・方針に基づいた教育実践の展開」については、Web 訪問者への理解を促進することができた。今後は、ニュースや教育レポートなどの教育実践の Web 掲載に合わせて、K-12 パンフレットとも連動させＱＲコードから該当ページへ遷移するなど、運用面でも工夫を図り、Web 訪問者への理解を深めていきたいと考えている。(0301-06)

評価規準	2022 年度の課題・重点施策	2022 年度自己評価 2022 年度の課題・重点施策に対する**達成状況**	2022 年度自己評価 2023 年度の**課題と改善方法**（2022 年度の課題・重点施策）
学習 (04)：効果的な教育の保証 **Learning (04)： Ensuring effective education** 規準(0401)：一貫したカリキュラムのデザイン Standard(0401)：Designing a coherent curriculum ０４０１－０１ 学校は、プログラムが実施される全学年にわたり、学習と指導を体系化する一貫したカリキュラムを計画し、実施すること。 ０４０１－０２ 教師は、協働して学校のプログラムをデザイン、計画、実施すること。 ０４０１－０３ 学校は、学校コミュニティーを明確に参加させるような方法でカリキュラムを開発し、定期的に見直し、共有すること。【K-16 連携を意識】	【学園教学部長】 ● JP クラスから Secondary Program Division、EP クラスから IB Programs Division への連携を意識した一貫性のある教科指導を行えるよう、各教科で検討を継続する。(0401-01) ● 総合的な学習の時間の中での「学びの技」及び、各教科の中における探究学習を意識した授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。(0402-01,0403-02) ● K-12 教科部会に加え、EP-IB の教科指導者の連携を深め、K-12 全体の評価方針に基づいた各教科の評価のあり方を継続検討していく。(0404-02)	【学園教学部長】 ● K-12 研修会(東山校舎)を行い、全ディビジョン参加した教科部会の中で授業研究を実施した。教科のディビジョン間の連携については今一歩不十分であった。(0401-01) ●「学びの技」に関しては、Primary Division は日常の授業、Secondary Program Division は自由研究の中で継続実施を行うことができた。また思考力育成委員会を中心に縦の連携を図るよう努めた。(0402-01,0403-02) ● 各教科部会で、新学習指導要領、及び、K-12 教育課程に基づいた教科指導における一貫性のある評価について継続検討中。(0404-02)	【学園教学部長】 ● JP クラスから Secondary Program Division、EP クラスから IB Programs Division への連携を意識したより一貫性のある教科指導を行えるよう、各教科で検討を継続する。(0401-01) ● K-12 全教員が探究的な学習について学べる場を設定する。「学びの技」及び、各教科の中における探究学習を意識した授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。(0402-01,0403-02) ● K-12 教科部会に加え、EP-IB の教科指導者の連携を深め、K-12 全体の評価方針に基づいた各教科の評価のあり方を継続検討していく。(0404-02)
	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 幼児期に伸ばしておきたい「非認知的能力」について、園内研修および外部講師による研修等で取り上げる。(0401-01) ● MMRC と連携し、幼児期の言語能力や思考力、自己肯定感、探究心を育むための環境の一つとして図書環境を整備する。(0402-01,05,06) ● 長時間の会議や打合せを廃し、ドライブ、オンラインでの情報共有を図る。また終業時に行う短時間のデイリーミーティング「終礼」を継続する。(0403-04) ● ポートフォリオに関する研修を年 1 回計画する。(0404-02)	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 年長チャレンジプログラムの一環として実施した TAP 活動の振り返りを通して、幼児期における協働性の育ちについて考えることができた。(0401-01) ● MMRC と連携して、全学年対象に「ぬいぐるみおとまりかい」を実施した。(0402-01,05,06) ● 週番が中心となって「終礼」を継続し、必要な情報の提供や共有をタイムリーに実施している。(0403-04) ● 7 月にポートフォリオに関する研修を計画したが、新型コロナウイルスの園内感染拡大にともない中止となった。(0404-02)	【担当部長（幼稚部担当）】 ● 小学校への接続を意識して設定した年長後期「チャレンジプログラム」を含め、幼稚部 3 年間の「学びのプログラム」の体系化を図る。(0401-01,0402-06) ● MMRC、スターレックドームとの連携活動を継続するとともに、MMRC 図書利用について保護者に対し啓蒙する。(0401-02,03) ● 個々の好奇心や興味関心が持続するよう、遊び・学びのポートフォリオを作成し教室等に掲示する。(0403-01) ● 個々の成長を捉え、促進するためのポートフォリオ作成に関して、教員研修を計画する。(0404-02) *2022 年度は新型コロナウイルスの影響により中止
規準(0402)：生涯学習者としての生徒 Standard(0402)：Students as lifelong learners ０４０２－０１ 生徒は、活発に思考、研究し、コミュニケーションをとり、社会的、および自己管理のスキルを発達させること。 ０４０２－０２ 生徒は、「教育の 12 信条」「IB の学習者像」の人物像に沿った継続的な発展を実証し、振り返りを行うこと。 ０４０２－０３ 生徒は、健全な人間関係、責任の共有および効果的に協働することの大切さについて理解し、発展させること。 ０４０２－０４ 生徒は、情報、論理、および倫理に基づいて判断を行う能力を向上させること。 ０４０２－０５ 生徒は、より広いコミュニティーと社会全般に肯定的な変化をもたらすのに必要な柔軟性、忍耐力、および自信を育むこと。 ０４０２－０６ 生徒は、チャレンジに満ちた目標を設定し、独自の探究を突き詰めることで、自身の学習に責任をもって取り組むこと。 ０４０２－０７ 生徒は、個人的な、また文化的なアイデンティティを模索し、発展させる機会を追求すること。	【教育部長（K-5 担当）】 ● K-12 の連携の中で、5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの構築を目指し、継続的に取り組む。また、継続的に JP クラスの英語力の到達度を測定することによって、カリキュラム改善を図る。(0401-01) ● EP クラスは、TOEFL Primary step2（3 年生）と Junior（5 年生）に検定を継続し、英語カリキュラムの改善に繋げる。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、日々の学習活動に取り組ませる。(0402-02) ● 3～5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築し、プログラミング的思考力の育成、探究的な学習の推進を図ることを継続していく。(0403-02) ● オンライン学習における評価方法を確立する。(0404-01,03)	【教育部長（K-5 担当）】 ● K-12 の連携の中で、5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの構築はできた。また JP クラスの英語力の 5 年生時の到達度を測定のためケンブリッジ英検ヤングラーナーズ PreA1Starters を昨年度に引き続き実施した。(0401-01) ● EP クラスは、TOEFL Primary step2（3 年生）と Junior（5 年生）に検定を実施した。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、具体的な目標を立てて取り組んだ。(0402-02) ● 3～5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築できたが、プログラミング的思考力育成目的のキュベットの活動（1・2 年生対象）は計画通り実施できた。(0403-02) ● オンライン参加が続く児童の成績評価に関しては教科毎に示したものを一覧表にまとめることができた。(0404-01,03)	【教育部長（K-5 担当）】 ● K-12 の連携の中で、5 年生までの一貫した ELF カリキュラムの構築を目指し、継続的に取り組む。また、継続的に JP クラスの英語力の到達度を測定することによって、カリキュラム改善を図る。(0401-01) ● 児童の英語力を測定する新たなテストのあり方を検討し、英語カリキュラムの改善に繋げる。(0401-01) ●「玉川っ子」の約束を意識し、「きれいな心、よい頭、強い体」の玉川っ子を目指し、日々の学習活動に取り組ませる。(0402-02) ● 3～5 年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムを構築し、プログラミング的思考力の育成、探究的な学習の推進を図ることを継続していく。(0403-02) ● オンライン参加が続く児童の成績評価に関しては教科毎で検討を継続しブラッシュアップを図っていく。(0404-01,03)
	【教育部長（6-12 担当）】 ● 国際教育、キャリア教育について、教科横断で行えるよう検討する。(0401-01) ● BYOD における ICT の活用研修を定期的に行う。(0401-01,02) ● 企業との連携で SDGs を教科横断的な学ぶカリキュラムを企画し実践することにより、常に思考し、学び続ける学習者を育成する。(0402-01) ●「学びの技」「SSH」での探究方法を参考にして、全自由研究にあった探究方法をそれぞれの自由研究で検討する。(0403-01,03) ● 2022 年度より実施される高等学校学習指導要領に基づいた教育課程における評価のあり方について検討する。(0404-02)	【教育部長（6-12 担当）】 ● 国際教育、キャリア教育について十分な検討ができなかった。(0401-01) ● BYOD における ICT の活用研修を定期的には行うことができなかった。(0401-01,02) ● 企業との連携で SDGs を教科横断的な学ぶカリキュラムを企画し実践することができた。(0402-01) ●「学びの技」「SSH」での探究方法を参考にし、自由研究での課題・探究の手法を、それぞれで検討することができた。(0403-01,03) ● 2022 年度より実施される高等学校学習指導要領に基づいた教育課程における評価のあり方について検討を進めることができた。(0404-02)	【教育部長（6-12 担当）】 ● キャリア教育において、各教科の教育実施を共有し、つながりのあるカリキュラムを模索する。(0401-01) ● ICT 活用の実践を共有し、各教科に適した活用方法を検討する。(0401-01,02) ● SDGs や起業教育カリキュラムについての検討を行う。(0401-01,05,06) ● 自由研究において、生徒がさらに主体的に活動できるよう「SSH」の探究方法を参考に検討する。(0403-01,03) ● 高等学校学習指導要領に基づいた教育課程における評価のあり方について引き続き検討する。(0404-02)

規準(0403)：指導のアプローチ Standard(0403)：Approaches to teaching ０４０３－０１ 教師は、生徒の自然な好奇心を培うために、探究・行動・振り返りを用いること。 ０４０３－０２ 教師は、生徒の思考力を高めるために概念理解の学習に重点を置くこと。 ０４０３－０３ 教師は、カリキュラムの関連性（教科横断、学年縦断）をもたせるために、地域およびグローバルな文脈を用いること。 ０４０３－０４ 教師は、肯定感があり、躍動感のある学習環境を創造するために、効果的な人間関係の構築と意義のある協働を促進すること。 ０４０３－０５ 教師は、生徒一人ひとりがやりがいのある独自の学習目標を立て、それを追求し達成できるように学習への障壁を取り除くこと。 規準(0404)：評価方法 Standard(0404)：Approaches to assessment ０４０４－０１ 生徒と教師は、学習、指導、および評価を向上させるためにフィードバックを行うこと。 ０４０４－０２ 学校は、カリキュラムおよび規定された学習結果と目標に見合うさまざまな評価方法を用いること。 ０４０４－０３ 学校は、公正でインクルーシブに、かつ一貫性と透明性をもって評価を実施すること。 ０４０４－０４ 生徒は、学習したことを定着させる機会として評価を利用すること。	【教育部長（IB 担当）】 ● These meetings will continue to be scheduled throughout the year at the request of the Director of Teaching and Learning, based on new information from the current and past cohorts of the Primary Division EP. (0401-01) EP クラスと MYP、DP プログラム間におけるカリキュラムに関する会議は、過去を含む EP クラス児童の最新情報を踏まえ、教務主任（Director of Teaching and Learning）の要請により、年間を通じて継続的に実施する。(0401-01) ● These weekly lessons across grade levels will be taught directly by the Director of Teaching and Learning and the Lead Teacher for Student Affairs. The two will continue to work with the MYP and DP Coordinators in a continued effort to vertically integrate the skills across Programs years. (0402-01) 全学年を横断して毎週行われる IB Core の授業は、教務主任（Director of Teaching and Learning）および生活主任（IB 担当）が直接指導する。また、引き続き MYP と DP のコーディネーターと協力し、年度を超えてスキルの統合を図ることができるよう取り組んでいく。(0402-01) ● More IB teachers as well as outside opportunities will be searched out to provide fresh reihai sessions for students. (0402-04) 外来講師を含め、さらに多くの IB 教員が礼拝講話を担当することができるか模索し、新たな礼拝の時間を提供していく。(0402-04) ● These professional growth processes are well underway and time will be continually provided to teachers to participate fully in them. Changes can be proposed from time to time by participants, and these will be debated and considered by the Director of Teaching and Learning. (0403-01) IB 教員の成長・育成促進のプロセスは軌道に乗っており、教員に対しては引き続きそのための時間を提供していく。教員からプロセスの改善が提案された場合は、教務主任（Director of Teaching and Learning）が中心となり検討する。(0403-01) ● Increased meeting opportunities between Subject Leaders and IB Coordinators will need to be timetabled and their frequency increased over time. Further opportunities for Subject Leaders to make requests and proposals to the Senior Leadership Team need to be searched out and implemented to insure further decentralized leadership of the Programs. (0404-03) 教科主任と IB コーディネーターとの面談の機会を時間をかけて増やす。また、教科主任が管理職に要望や提案をする機会をさらに増やし、IB プログラムにおけるリーダーシップの分散化をより確かなものにする。(0404-03)	【教育部長（IB 担当）】 ● A weekly meeting between the MYP & DP Coordinators and all Subject Leaders has been timetabled since April 2022. The purpose of this meeting is greater and more frequent communication between department leaders and the senior leadership team, as well as the further decentralization of the Division's decision making process. (0404-03) 2022 年 4 月より、MYP と DP のコーディネーターと全教科主任との週 1 回のミーティングを定期的に行なうようになった。この会議の目的は、教科のリーダーたちと管理職のコミュニケーションをより多く頻繁に行うことと、ディビジョンの意思決定プロセスをさらに分散化させることであり、効果が見られた。(0404-03) ● IB Core is a class for grades 6-9 that has appeared on the weekly timetable since April 2022. It is taught by the Director of Teaching and Learning and the Lead Teacher for Student Affairs. It focuses on IB concepts and skills across subjects. (0402-01) IB Core は、2022 年 4 月から基本時間割に設置された 6-9 年生向けの授業であり、教務主任（Director of Teaching and Learning）と生活主任が担当している。教科の学習を超えた IB の概念やスキルの理解・習得に焦点をあて、授業を展開することができた。(0402-01) ● Reihai services were led by 12 separate IB teachers throughout the 2022-23 school year. Teachers who did not participate this year will be encouraged to participate in the following year. (0402-04) 2022 年度の礼拝講話は、12 人の IB 教員が担当した。より多くの教員に携わってもらうために、今年度担当しなかった教員は、次年度に参加するよう調整する。	【教育部長（IB 担当）】 ● Further changes to the weekly meeting schedule will be examined each winter in anticipation of the master timetables publication in April. Meetings will be added/subtracted/changed in frequency upon recommendation of the senior leadership team in communication with other shareholders.(0404-03) 基本時間割は、4 月の確定に向けて毎年冬に変更を検討する。教員の意見を集約しながら、管理職の推奨・提案により、ミーティングの追加、縮小、頻度の変更を行ない、実情に合わせ、年度中も変更を行なう。(0404-03) ● The curriculum of this class will continue to be refined in collaboration with the Director of Teaching and Learning, the Lead Teacher for Student Affairs and the MYP Coordinator. (0402-01) IB Core のカリキュラムは、教務主任（Director for Teaching and Learning）、生活主任、MYP コーディネーターと協力しながら、引き続き改良を進めていく。(0402-01) ● Continue to disperse reihai duties in an equitable way among teachers.(0402-04) 引き続き、教員間で公平に礼拝担当を分担し、よりよい礼拝運営を目指す。(0402-04)
	【アカデミックサポートセンター長】 ● 自学自習を行う SH の運営では、園児・児童・生徒一人ひとりが自己の課題に沿った目標を設定し、達成へと繋がるよう学習支援体制を検討する。(0401-02) ● 語彙力の向上を目指し、学年ごとに良質な読書活動をさらに推進させ、文章力のスキルアップとなる取り組みを検討する。また、探究型学習ではラーニングスキルの育成の中で、データに基づく論証を意識させる指導方法を検討する。(0403-02)	【アカデミックサポートセンター長】 ● ES の SH 教員および学生メンターが、児童・生徒一人ひとりに対して面談を実施し、学習目標と課題解決の計画を定期的に立てさせた。(0401-02) ● 学年会および国語科との連携により、複数の学年でブックトークを実施し、子ども達の読書意欲の向上と説明文章作成の機会を多く作ることができた。また、9 年学びの技において、複数データの組み合わせによる根拠作りに BI ツール Tableau を活用した授業を行った。(0403-02)	【アカデミックサポートセンター長】 ● 普段の教育活動では時間的・物理的な制限から実施出来ない発展的で魅力的な学習内容がある。その内容の中から ES の新規講座として取り扱う可能性を検討する。(0401-02) ● 探究学習における統計的思考力の育成方法について、ICT を十分に活用し学齢に応じた指導方法を検討する。(0403-02)

学習 (04)：効果的な教育の保証 Learning (04)： Ensuring effective education	【教務委員長】 ● 2022 年度から段階的に実施される高等学校学習指導要領に基づいた一貫カリキュラムについても引き続き検討する。(0401-01) ● 各教科、自由研究、学びの技などで、思考力を高め、知的好奇心を刺激するカリキュラムを検討する。(0403-01,02)	【教務委員長】 ● 2022 年度から段階的に実施される高等学校学習指導要領に基づいた一貫カリキュラムについて検討することができた。(0401-01) ● 各教科、自由研究、学びの技などで、思考力を高め、知的好奇心を刺激するカリキュラムを検討することができた。(0403-01,02)	【教務委員長】 ● 2022 年度から段階的に実施される高等学校学習指導要領に基づいた一貫カリキュラムについて引き続き検討する。(0401-01) ● 各教科や自由研究など、横断的で、思考力や知的好奇心を高めるカリキュラムを検討する。(0403-01,02,03)
	【生活委員長】 ● 「心の教育」礼拝、道徳、HR、TAP、カウンセラーワークショップ等は、更に ICT を活用した対面とオンライン併用を安定させる。また、学齢に応じた相互の教材を準備し計画的に進める。(0401-03)	【生活委員長】 ● 「心の教育」では礼拝･道徳･HR･TAP･カウンセラーワークショップ等に於いて、対面での活動を増やすことができた。また、ICT を活用した活動の展開も安定してきた。礼拝では更に学齢に応じた運用と形態の工夫を継続検討していく。(0401-03)	【生活委員長】 ● 「心の教育」として礼拝･道徳･HR･TAP･カウンセラーワークショップ等の運用と形態を確認し、礼拝では学齢に応じた運用と形態の継続検討を進める。 ● ICT を活用した教育活動での教材を増やしていく。(0401-03)